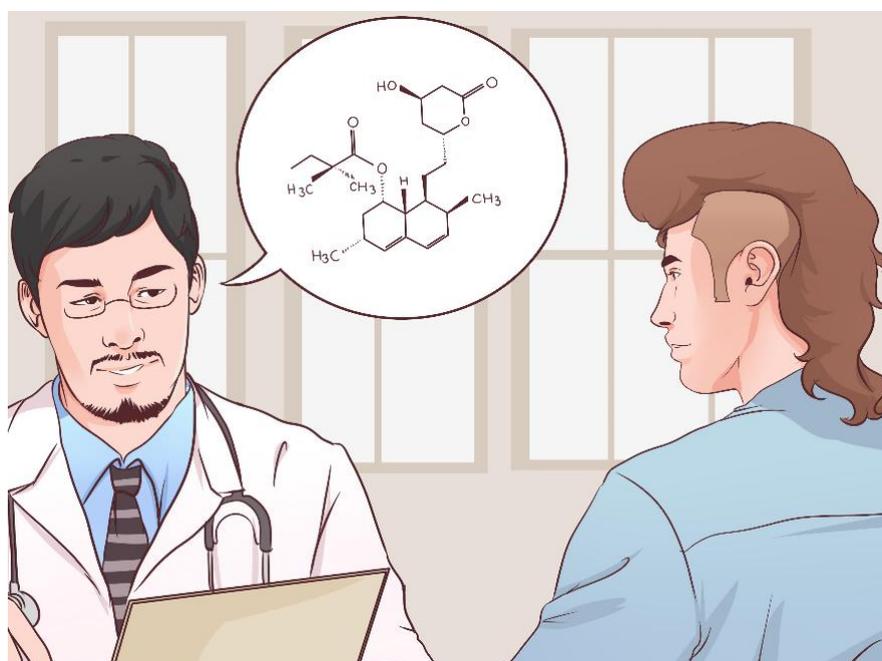


高脂血症と膵炎について

一般に、中性脂肪（TG）が 1000mg/dL を超えると急性膵炎のリスクが高くなります。膵炎発症の頻度は、TG 値が 1000mg/dl 以上で 8%、TG 値が 2000mg/dl 以上で 10-20% と、TG 値が高くなるにつれて、頻度が上昇します。また、血中の TG 値が 2,000mg/dL を超えると、しばしば重症化します。



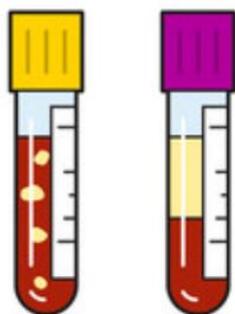
中性脂肪が高くなる原因には遺伝子異常症、糖尿病、肥満、アルコール大量飲酒、妊娠、ステロイド投与、薬剤性（利尿剤、 β ブロッカー、選択的セロトニン受容体阻害剤、プロテアーゼ阻害剤）などがあります。



高脂血症による膵炎は、膵炎全体の1~4%と頻度は少ないが、若年発症で重症化しやすいいため注意が必要です。71.5%が重症であったとの報告もあります。



高脂血症による膵炎は、血中のTG値が著明に上昇し、血清は乳白色に混濁し、いわゆる乳び血清となります。そのため、診断は尿中アミラーゼやCTなどで行います。



高脂血症に伴う膵炎発症時には、一般的な急性膵炎の治療に加え、TG値を500mg/dL以下に低下させることを目標に血漿交換などの血液浄化療法などが行われます。



予防は食事療法と禁酒に加え、中性脂肪を下げる薬が必要になります。また、高血糖や甲状腺機能低下症など、脂質代謝に影響する病態は、それぞれの治療を行います。



